

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24700245

研究課題名(和文)『バビロン(天文)日誌』未発表資料の所蔵状況調査、断片の結合と解読

研究課題名(英文) A Survey of Unpublished Tablets of the Babylonian Astronomical Diaries

研究代表者

三津間 康幸(Mitsuma, Yasuyuki)

東京大学・総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：00568280

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円、(間接経費) 330,000円

研究成果の概要(和文)：大英博物館およびイスタンブール考古学博物館所蔵で、アッカド語、楔形文字を用いて粘土板に記された記録文書である『バビロン天文日誌』のうち、刊本に未発表の粘土板(断片)、約千点を調査した。各粘土板について写真を撮影し、寸法を測定し、粘土板各部の特徴を記録した。また、若干の粘土板については、断片同士の接合を発見した。また1点の、特に状態の良いセレウコス朝時代の粘土板については、学術雑誌に解読結果を示す論文を投稿し、受理された。

研究成果の概要(英文)：The leader of the project consulted and photographed a thousand of unpublished cuneiform (mostly fragmentary) tablets of the astronomical diaries from Babylonia. Almost all of the tablets are preserved in the British Museum, London, while one fragment is in the Archaeological Museum, Istanbul. Furthermore, the leader submitted a paper which shows the copy, transliteration, and translation of a Seleucid diary tablet. This paper has been accepted and will appear soon.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学/図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：バビロン 天文日誌 楔形文字 粘土板 アッカド語 アッシリア学 大英博物館 セレウコス朝

1. 研究開始当初の背景

前8世紀後半から前1世紀前半にかけて、ティグリス・ユーフラテス両河地方の主要都市バビロンでは、天文、天候、河川の水位の観測や、農畜産物の価格や歴史的事件などについての情報収集が継続的に行われた。天文事象は連日観測され、またその他の観測、情報収集も数日から10日単位の間隔でなされた。このようにして収集された膨大な情報はアッカド語、楔形文字を用いる学者たちによって、数多くの粘土板に書き記された。こうしてできた資料が『バビロン天文日誌』である(以下この資料のことは単に日誌と呼称)。日誌の粘土板は現在のところほとんどが大英博物館(以下BMと呼称)に所蔵され、許可を得れば誰でも調査、写真撮影、そして発表が可能である。しかし、その公刊は停滞している。1955年に故A. J. Sachsによって出版されたカタログ(T. G. Pinches, J. N. Strassmaier, & A. J. Sachs, *Late Babylonian Astronomical and Related Texts* [Providence, RI: Brown Univ. Press, 1955])は日誌の粘土板835枚に言及する。その半分以上が、Sachsの作業を引き継いでH. Hungerが編集した刊本に発表された(A. J. Sachs, *Astronomical Diaries and Related Texts from Babylonia*, Vols. 1-3 [Ed. H. Hunger; Wien: VÖAW, 1988-1996])。しかし、研究代表者の数えによればカタログ記載粘土板のうち、BMにある379枚が刊本に収録されていない。また、イスタンブール考古学博物館にも未発表の日誌粘土板1枚が存在する。さらに、BMにはカタログに未掲載の日誌も多数あることを、研究代表者は2011年に同館前学芸員のC. B. F. Walker氏より知らされた。このような情報に接し、研究代表者は刊本未収録の日誌粘土板の調査研究を急務と考えるようになった。

2. 研究の目的

大英博物館およびイスタンブール考古学博物館所蔵で、刊本未収録の日誌粘土板の状態を明らかにし、一部の資料の解読、公表を目指す。

3. 研究の方法

大英博物館およびイスタンブール考古学博物館が所蔵する、刊本未収録の日誌粘土板を博物館内で実見調査し、デジタルカメラで各部の写真を撮影する。撮影は主に文字が刻まれる表面、裏面を対象とする他、4側面のいずれかに文字が刻まれている場合にはその側面も撮影する。また、照明は常に楔形文字テキストの左斜め上から当て、コピースタンドを用いて各面の真上にカメ

ラを固定して撮影するのが原則であるが、そうすると撮影する各面の上端、左端には照明が当たりすぎるため、一方下端、右端には照明が当たりにくいために、これらの部分については鮮明な画像が得られない。そこで粘土板を適宜傾け、端の部分に適切な光を当てた写真も撮ることで、粘土板の隅々まで鮮明な画像を得る。撮影を終えた粘土板はデジタルノギスを用いて寸法を測定し、さらに粘土板各面(表、裏、4側面)の特徴を記述する。さらに、粘土板断片同士、あるいは断片と欠けのある粘土板同士で接合するものがないかどうか検討する。また、状態の良い粘土板については、模写を作成し、楔形文字テキストの読みをアルファベットに直した翻字、翻訳、注釈を付して論文に公表する。模写の作成はパソコン画面と同期した描画用タブレット上で、粘土板の写真をタッチペンでトレースすることによって行う。

このような作業に付随して、既刊行の日誌や関連の天文文書、歴史文書の粘土板も調査し、日誌の書誌学的な研究や、既刊行のテキストの問題点の解決などに務める。

4. 研究成果

2012年4月及び2012年10月から2013年8月まで、ロンドンの大英博物館ではほぼ連日研究を行い、アッカド語楔形文字資料『バビロン天文日誌』の調査を行った。特に刊本に未収録の粘土板(断片)およそ1000枚について、デジタル写真撮影、寸法の測定、そして各部の特徴の記録など、基礎的な作業を行った。また関連の粘土板(既刊行の日誌粘土板や天文文書)についても写真撮影、寸法測定、特徴の記録を行った。また2013年1月にはイスタンブール考古学博物館を訪問し、同館が所蔵する未公開の日誌粘土板断片及び関連の天文文書について、同様の作業を行った。

大英博物館における作業の過程で、若干の粘土板断片について断片同士が接合することを発見し、これを博物館の学芸員に報告した。今後、博物館の保存スタッフにより、断片同士の接着作業が行われる予定である。

このような調査・作業と並行して、2012年7月にライデン大学で開催された第58回国際アッシリア学会と、2013年7月にヘント大学で開催された第59回アッシリア学会に出席し、古代のバビロンにおける日誌の編集過程を明らかにした(発表2, 3)。また、日誌の書式の発展を通時的に明らかにする報告を、2014年5月15日にフンボルト大学ベルリンで行う予定である(発表1)。

論文、図書の面では9件の成果を得た。この内図書3-5は、既刊行の日誌に含まれる、特に重要な歴史記事の日本語訳と詳細な注釈である。また、図書2は、バビロン

の学術活動の発達を日誌の発展と結びつけて論じるもので、日誌についての詳細な解説を含む。

論文 1 は、未公開のセレウコス朝時代の日誌粘土板 1 枚について、学術雑誌にその解説結果を明らかにするものである。その中では、当該粘土板の模写、テキストの翻字、英訳、注釈を示し、発表 2, 3 で示した日誌の編集過程に基づいて、当該粘土板を、一次的な観測記録である「基礎日誌」に分類している。さらに、テキストの最初の行に記された王名などを手がかりに、記録の年代を絞り込んでいる。

論文 2-4、図書 1 は、いくつかの既刊行の日誌や関連文書について、現行の刊本では解読されていない部分、または現行刊本の読みに誤りや疑義がある箇所、あるいは解釈に問題がある箇所を示し、未解読テキストの解読結果や現行刊本のテキストの修正、新たな解釈を報告するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. “BM 30617: An Astronomical Diary from the Reign of Antiochus and His Son Antiochus,” Yasuyuki MITSUMA, *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, 査読有(掲載確定)
2. “A New Reading of the Astronomical Diary -651 Col.iv 21’,” Yasuyuki MITSUMA, *Nouvelles Assyriologiques Brèves et Utilitaires* 2014, 査読無(掲載確定)
3. “Offering for the Well-being of Bagayasha in the Astronomical Diary -132D₂,” Yasuyuki MITSUMA, *Nouvelles Assyriologiques Brèves et Utilitaires* 2013, n.93, 査読無, 154-155 (2013)
4. “Large Wooden Writing Board Mentioned in the Astronomical Diary -213,” Yasuyuki MITSUMA, *Nouvelles Assyriologiques Brèves et Utilitaires* 2013, n.54, 査読無, 90-92 (2013)

[学会発表](計3件)

1. “Stylistic Development of the Astronomical Diaries from Babylonia,” Yasuyuki MITSUMA, 4th Regensburg Workshop on Mesopotamian Astral Sciences, フンボルト大学ベルリン, ベルリン, ドイ

ツ, 2014年5月15日(招待講演)

2. “Compilation of the Late Babylonian ‘Standard’ Astronomical Diaries,” Yasuyuki MITSUMA, 59^e Rencontre Assyriologique Internationale, ヘント大学, ヘント, ベルギー, 2013年7月15日
3. “Scholars' Own Reports and Royal Letters: How and When They Were Included in Astronomical Diaries?,” Yasuyuki MITSUMA, 58^e Rencontre Assyriologique Internationale, ライデン大学, ライデン, オランダ, 2012年7月18日

[図書](計5件)

1. “The Offering for the Ritual of King Seleucus III and His Offspring,” Yasuyuki MITSUMA, *Time and History in the Ancient Near East: Proceedings of the 56th Rencontre Assyriologique Internationale, Barcelona, July 26–30, 2010* (Eisenbrauns, Winona Lake, IN), 739-744 (2013)
2. 「バビロン：天空を仰ぎ見る学知の都市」, 三津間康幸, 『ローマ帝国と地中海文明を歩く』(講談社), 357-375 (2013)
3. 「アレクサンドロス大王のバビロン征服(前三三〇年 - 前三三〇年): バビロン天文日誌(前三三〇年 - 前三三〇年)」, 三津間康幸, 『世界史史料第1巻: 古代のオリエントと地中海世界』(岩波書店), 335-336 (2012)
4. 「セレウコス朝の衰退(前二世紀後半): バビロン天文日誌(前一四〇年 - 前一四〇年)」, 三津間康幸, 『世界史史料第1巻: 古代のオリエントと地中海世界』(岩波書店), 338-340 (2012)
5. 「アルサケス(アルシャク)朝の苦難(前一三〇年代 - 前一〇〇年代): バビロン天文日誌(前一一九 - 前一一八年)」, 三津間康幸, 『世界史史料第1巻: 古代のオリエントと地中海世界』(岩波書店), 340-341 (2012)

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三津間 康幸(MITSUMA YASUYUKI)
東京大学・大学院総合文化研究科・学術
研究員
研究者番号：00568280

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし